

平成 21 年 7 月 30 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表執行役社長 八城 政基
(コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 22 年 3 月期 第 1 四半期決算について ～基本に立ち返り、順調な滑り出し～

平成 22 年 3 月期第 1 四半期の連結四半期純利益は、51 億円(前年同期 108 億円)となりました。キャッシュベース連結四半期純利益*は、97 億円(前年同期 134 億円)となりました。

・連結決算の概要

- ・業務粗利益は前第 1 四半期比 43.4%増の 875 億円。経費の減少(新生フィナンシャルの経費を除いたベースで 20%減少)により、経費率は 50.9%に改善。
- ・純資金利鞘(ネットインタレストマージン)は昨年度の 2.41%から、当第 1 四半期は 2.58%に上昇。
- ・個人部門の業務粗利益は、主に新生フィナンシャルの連結化により、前年同期比 63.5%増。
- ・法人・商品部門では、リスク資産への手当てが進展。経費は前年同期比 31.2%減。
- ・当行劣後債の買戻しにより経営勘定/その他が収益に大きく貢献。

・流動性、資本および資産の質

- ・強固な流動性を確保し、平成 21 年 6 月末現在、預金残高は約 7 兆円、手元流動性は約 1.9 兆円。
- ・一部の短期貸出の満期到来などによりリスクアセットが減少し自己資本比率が改善。平成 21 年 6 月末の Tier I 比率は 6.84%、コア Tier I 比率**は 4.58%、自己資本比率は 9.29%。評価差額の改善により TCE レシオ***は 3.22%に上昇。
- ・世界的な経済環境は回復の兆しを見せ始めているが、主に国内不動産関連貸出にかかる資産の質が低下しており、慎重なリスク管理と相俟って、不良債権比率は上昇。

・平成 22 年 3 月期通期業績予想

- ・平成 22 年 3 月期は黒字化を予想、連結当期純利益予想は 100 億円(キャッシュベース連結当期純利益予想*は 280 億円)

・代表執行役社長 八城からのメッセージ

「今年度につきましては、昨年度から実施している業務の見直しや合理化が実を結び、順調な滑り出しとなっております。連結子会社である新生フィナンシャルや、堅調な伸びを継続しているリテールバンキングの収益貢献により、個人部門の業績は改善しました。法人・商品部門では、市場環境回復の機会を捉えて売却益を計上する一方、リスク資産への手当てを引き続き実施するなど、慎重なリスク管理に努めております。来年度、あおぞら銀行との合併に向けて、健全なバランスシートを確保できるよう、流動性を十分に確保しつつ資本の強化に努めてまいります。」

* 純利益(または純損失)からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

** コア Tier I 比率 = (Tier I 資本(除く優先出資証券、優先株式) - 繰延税金資産の純額) / リスクアセット

*** TCE (Tangible common equity) レシオ = (純資産-優先株式-無形固定資産-少数株主持分) / (総資産 - 無形固定資産)

平成 22 年 3 月期第 1 四半期連結決算の要点、概要は以下のとおりです。
 (特段の注記がない限り、以下内容は連結ベースで記載しております)

1. 平成 22 年 3 月期第 1 四半期連結業績の要点

(単位: 億円、%)

	平成22年3月期 第1四半期	平成21年3月期 第1四半期	増減率
業務粗利益	875	610	+43.4%
純資金利鞘(ネットインタレストマージン)	2.58%	1.88%	-
経費	445	409	+8.6%
経費率	50.9%	67.2%	-
実質業務純益	430	200	+114.8%
四半期純利益	51	108	△52.4%
キャッシュベース四半期純利益*	97	134	△27.7%
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益**	2.63円	5.53円	△52.4%
同キャッシュベース(円)	4.96円	6.86円	△27.7%
キャッシュベースROE(潜在株式調整後、年換算ベース)	6.8%	7.6%	-
キャッシュベースROA(年換算ベース)	0.3%	0.5%	-
	平成21年6月末	平成21年3月末	増減率
総資産	122,493	119,491	+2.5%
潜在株式調整後1株当たり純資産(円)	300.62円	284.95円	+5.5%
自己資本比率(バーゼルII、F-IRB)	9.29%	8.35%	-
Tier I 比率	6.84%	6.02%	-
コアTier I 比率***	4.58%	4.03%	-
TCEレシオ****	3.22%	3.00%	-
金融再生法上開示不良債権比率(単体)	3.65%	2.51%	-

* 四半期純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を 除いたもの

** 会計上は希薄化効果を有する潜在株式が存在しない場合、開示しないこととなっておりますが、比較可能性の観点から、上表では記載しております。平成 22 年 3 月期第 1 四半期 1 株当たり四半期純利益は、上記潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益と同値であります。

***コア Tier I 比率 = (Tier I 資本(除く優先出資証券、優先株式) - 繰延税金資産の純額) / リスクアセット

**** TCE (Tangible common equity) レシオ = (純資産-優先株式-無形固定資産-少数株主持分) / (総資産 - 無形固定資産)

2. 財務の状況 ～流動性維持と積極的なリスク削減に注力～

平成 21 年 6 月末の当行の総資産は、貸出金は減少したものの、主に有価証券の増加に伴い、3 月末(11 兆 9,491 億円)比 2.5%増加し、12 兆 2,493 億円となりました。有価証券残高は、流動性準備目的として主に国債の保有を増やしたことから、平成 21 年 6 月末には 3 兆 2,623 億円となり、3 月末(2 兆 1,741 億円)比 50.1%増加いたしました。貸出残高は、主に法人・商品部門におけるベーシックバンキング業務での貸出残高の減少により、平成 21 年 6 月末には 5 兆 3,415 億円となり、3 月末(5 兆 8,769 億円)比 9.1%減少いたしました。

預金残高は、平成 21 年 3 月末比 7,225 億円(11.5%)増加し 6 兆 9,946 億円となりました。当行ではリテールのお客さまからの預金などを中心に、安定的な資金調達を通じた強固な流動性の維持に引き続き注力しており、平成 21 年 6 月末のリテールのお客さまからの預金残高は、3 月末比 6,337 億円増加し、5 兆 6,567 億円となりました。

平成 21 年 6 月末現在、パーゼルⅡ基準での当行連結自己資本比率(国内基準)は 9.29%、Tier I 比率は 6.84%となっております。また、平成 21 年 6 月末のコア Tier I 比率は 4.58%、TCE レシオは 3.22%と、前年度末比で回復しております。

3. 損益の状況 ～収益は堅調な伸び、新生フィナンシャル分を除いたベースでの経費は減少、純資金利鞘は拡大～

当第 1 四半期の業務粗利益は、前年同期比 43.4%増の 875 億円となりました。純資金利鞘は主に新生フィナンシャルが連結されたことにより、平成 21 年 3 月期の 2.41%から当第 1 四半期は 2.58%に改善しました。個人部門は、連結子会社として新生フィナンシャルの業績が反映されたことにより、堅調な収益の伸びを記録しました。一方、法人・商品部門においては、CLO の売却益および社債の売却益を計上する一方、引き続き損失処理を行いました。また、当行劣後債の買戻し等により 94 億円の収益を計上し、経営勘定/その他は収益に貢献しました。

経費は、前年同期比 8.6%増の 445 億円となりました。増加の主因は新生フィナンシャルが平成 20 年 10 月 1 日より当行の連結決算に取り込まれたことによるものです。新生フィナンシャル以外の業務は、合理化や効率性向上に向けた取り組みにより経費が減少していることから、新生フィナンシャルの経費を除いたベースで、当第 1 四半期の経費は前年同期比で 20%減少しております。この結果、経費率は 50.9%に改善しております。引き続き経費の削減については重要課題として注力してまいります。

当第 1 四半期における与信関連費用は、主に新生フィナンシャルが平成 20 年 10 月 1 日より連結子会社となったことや、プリンシパル・インベストメンツや不動産ノンリコース・ファイナンス関連貸出への与信関連費用の増加により、260 億円となりました。買収したコンシューマーファイナンス、コマースファイナンス子会社にかかるのれん・無形資産の償却額は、前年同期が 29 億円だったのに対し、新生フィナンシャルの買収により、当第 1 四半期は 53 億円となりました。

その他損失は、前年同期は当行目黒プロダクションセンターのビル売却益 72 億円が含まれていたのに対し、当第 1 四半期は主にコンシューマーファイナンス子会社にかかる過払利息返還損失引当金 55 億円が計上されたことなどから、41 億円の損失となりました。

当第 1 四半期における少数株主利益は、主に優先出資証券への利払い、アブラスの優先株への配当、そして他の連結子会社での四半期純利益に対する少数株主の持分相当により 27 億円となりました。

その結果、当第 1 四半期の連結四半期純利益は、51 億円(前年同期 108 億円)となりました。また、当第 1 四半期のキャッシュベース連結四半期純利益は、97 億円(前年同期 134 億円)となりました。

4. 部門別損益状況

法人・商品部門 ～経費ベースの低下と CLO の売却はプラスの材料～

法人・商品部門は法人向け銀行業務と昭和リースで構成されます。

法人・商品部門におきましては、平成 21 年 6 月末のベーシックバンキング業務における企業向け一般貸出残高は 3 月末に比べ減少しました。一方で、平成 21 年 6 月末の法人預金は 3 月末比増加しました。

当第 1 四半期の業務粗利益は、CLO の売却益 87 億円や、外国為替、デリバティブ、株式関連取引の収益を含むその他キャピタル・マーケット業務は収益が回復し利益を計上したものの、ベーシックバンキング業務の収益は横ばいで、プリンシパル・インベストメンツ業務では日盛金融控股股份有限公司(Jih Sun Financial Holding Co., Ltd)にかかる持分法投資損失 46 億円を含む損失となったことにより、207 億円(前年同期 226 億円の利益)となりました。

業務粗利益は減少したものの、経費は、昨年度実施した厳格なコスト管理と経費削減により 31.2%削減し、当第 1 四半期は実質業務純益 92 億円の計上(前年同期 58 億円)となりました。収益の低下や、主に海外向け貸出や不動産ノンリコース・ファイナンス関連貸出にかかる与信関連費用の増加により、与信関連費用加算後実質業務純益は 1 億円(前年同期 65 億円)となりました。

個人部門 ～将来の成長の原動力として期待される新生フィナンシャルとリテールバンキングが収益に貢献～

個人部門はリテールバンキングおよび子会社(新生フィナンシャル、アプラス、シンキ、新生プロパティファイナンス)から構成されます。当行は平成 20 年 9 月 22 日に新生フィナンシャルを GE ジャパン・ホールディングス株式会社より取得いたしました。新生フィナンシャルの損益は平成 20 年 10 月 1 日より当行の連結決算に反映されています。

平成 21 年 6 月末における、コンシューマーファイナンスおよびリテールバンキングを含む個人部門の貸出残高は、引き続き質の高いお客さまの獲得に注力したことにより、3 月末比減少しました。一方で、当行では安定的なリテール預金の増加を通じた高い流動性の維持に注力しており、平成 21 年 6 月末時点におけるリテール預金残高は 5.6 兆円を超え、リテールバンキングの口座数は約 250 万となっています。また、平成 21 年 6 月末における、リテール預金、リテール債券ならびに投信／年金を含む預り資産残高は引き続き増加し、6.6 兆円を超えています。

当第 1 四半期の業務粗利益は、主に新生フィナンシャルが連結子会社となり、リテールバンキング業務が引き続き改善したことから、589 億円と前年同期(360 億円)比 63.5%増加いたしました。

また、実質業務純益は、業務粗利益の増加に加え、新生フィナンシャルの経費を除いたベースでの経費の減少により、256 億円と前年同期(122 億円)比 109.5%増加しました。当第 1 四半期の与信関連費用加算後実質業務純益は、主に新生フィナンシャルが個人部門に加わり、リテールバンキングにおける着実な業績回復により、86 億円(前年同期 32 億円)となりました。

5. 平成 22 年 3 月期通期業績予想

平成 22 年 3 月期の連結業績予想につきましては、連結当期純利益は 100 億円、キャッシュベース連結当期純利益*は 280 億円と予想しております。平成 22 年 3 月期の当行単体の業績予想につきましては、当期純利益 100 億円と予想しております。

* 純利益(または純損失)からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

6. 新生銀行とあおぞら銀行による合併行の特色

- ・国内銀行第 6 位となる資産規模(平成 21 年 3 月末時点)、強固な資本基盤・資金調達力を有し、金融機関としての安定性を確保
- ・高度な金融ノウハウ・専門性や、革新的な IT 技術を保持
- ・メガバンクでも地域金融機関でもなく、特定の金融グループに属さない中立性を維持
- ・長信銀としてスタートした長い歴史を持つ銀行の経験、ノウハウを共有し、中長期的視点に立った審査能力や、お客さまとの取引志向を保持
- ・広く認知され、顧客からの高い満足度を獲得しているブランド力を継承

当第 1 四半期決算に関する詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results_2009/quarterly_results_2009.html

以上